報　告

『乳児保育Ⅱ』の教授内容に関する一考察
～学生によるアンケート調査より～

野中　千都

<要　旨>

1年次に保育所実習Ⅰを経験した学生は、実際に乳児と関わることで多くを学び、学生一人ひとりが次の実習である保育所実習Ⅱへの学習課題を持っていると思われる。

1年次後期には『乳児保育Ⅰ』が開講され、1年次2～3月にかけて行われる保育所実習Ⅰをはさんで、2年次前期には『乳児保育Ⅱ』が開講される。『乳児保育Ⅰ』で乳児保育の基本を学んだ学生は、『乳児保育Ⅱ』にどのような内容を求めているのだろうか。2年次学生へのアンケート調査より、学生自身の感じている乳児保育に関する学習課題を探った。また、アンケート調査より出された学習課題は、本来の『乳児保育』の教授内容とどのようにかかわっているかを考察した。

キーワード：乳児保育、教授内容、保育実習、学生、学習課題

Ⅰ．目的

学生が‘子ども’や‘保育’について学ぶ場合、より高い学習効果をもたらすためにも、学ぶ対象に対してリアリティを伴ったイメージが出来ることが望ましい。子どもに実際にかかわることが出来ない場合は、自らの記憶をたどるかメディア等から、そのイメージを探るものとなる。しかしながら、授業で学生に自らの記憶の最も古いエピソードを尋ねた場合、3歳未満時における記憶のエピソードを持っていると答える学生は特に少なく、約100名中2～3名がせいぜいといったところである。保育士養成校で『乳児保育』の授業を担当して10年になるが、毎回第1回目の授業でこの質問を試みた場合、3歳未満児の記憶エピソードを持つ学生の割合はどの学年も同様である。

乳児とは児童福祉法で「1歳に満たないもの」と定められているが、『乳児保育Ⅰ』、『乳児保育Ⅱ』で学びの対象となるのは0～3歳の乳幼児である。学生自らの記憶をもとに、乳児保育対象の乳幼児のイメージを膨らませるのは困難なことが容易に想像できる。乳幼児と普段から接する状況にあれば自らの記憶に頼ることもないが、少子化の進行する現代では日常で乳幼児に接することは難しいことだろう。やはり、保育士を目指す学生にとって‘本物の乳幼児’に接することの出来る最たる機会は保育実習、特に保育所での実習となる。

本学保育科では、1年次後期に『乳児保育Ⅰ』が開講され、1年次2月に保育実習Ⅰ（本学では保育所実習Ⅰ、保育士必修科目）が実施され、それぞれの学生が10日間の保育所での実習を行なう。その後、2年次前期に『乳児保育Ⅱ』が開講される。つまり、1年次に学ぶ『乳児保育』での教授内容によっては、写真やビデオなどの映像等の教材を使用したとしても対象となる乳幼児のイメージは乏しく、学生によっては学習が困難な場合も予想される。『乳児保育Ⅰ』では、乳幼児を具体的にイメージできずとも理解を深められるような教授内容を組み立てる必要があるだろう。また、保育実習Ⅰ（保育所実習Ⅰ）を行なうために必要な、乳児保育の基本を学ぶ必要があるだろう。それらを経て、学生は、実習において机上で学んだことをもとに実践し、直接乳幼児と接し、そのつど保育者から指導を受け反省しながら実践を繰り返す。

現在、多くの保育所で乳児保育が実践されている。また、厚生労働省は、特に0・1・2歳の乳児を主と

西南女学院大学短期大学部保育科　講師

した待機児童の解消のために様々な保育の形を進めている。汐見稔幸は、急速に変化する保育システムに、2004年度および2005年度の日本保育学会の自主シンポジウムにおいて、0歳児保育について保育環境、保育者の資質、保育内容や方法など大急ぎで基礎理論を構築しなければならないとしている[1) 2)]。

学生にアンケート調査を行なうことにより、保育所実習Ⅰで0，1，2歳児と接した学生は、どのような乳児の保育内容や養護内容に学習課題を感じたのか明らかにするものとする。また、それぞれの学生の『乳児保育』での学習課題と『乳児保育Ⅱ』の授業はどのようにつながったのだろうか。

Ⅱ．調査方法

本学短期大学部保育科に在籍する2年次生で『乳児保育Ⅱ』の履修者を対象に、『乳児保育Ⅱ』の授業アンケートを行なった。なお、アンケートの目的および使用方法に関しては事前に説明を行い、協力できる学生に依頼した。

調査対象　西南女学院大学短期大学部保育科2年次生
『乳児保育Ⅱ』履修者（調査実数163名）
調査年月　2007年7月
授業科目　乳児保育Ⅱ
調査内容　・『乳児保育Ⅱ』の授業で、「特に役に立った」「特に学んだと実感できた」あるいは「役に立った」「学んだと実感できた」内容
・『乳児保育Ⅱ』の授業で、「特にもっと学びたかった」あるいは「もっと学びたかった」内容
上記2点を中心に、『乳児保育Ⅱ』のシラバス内容と併せた10項目および自由記述より調査

調査対象である学生は1年次に『乳児保育Ⅰ』を履修しているが、授業担当者は異なる。したがって1年次に履修した『乳児保育Ⅰ』の内容はシラバスより推測するものとし、『乳児保育Ⅱ』の授業計画を行なった。また、対象の学生は1年次に保育所での10日間の実習を行なっている。

Ⅲ．調査結果および考察

1．『乳児保育Ⅱ』で学びたいと思ったことについて

第1回目の授業で「『乳児保育Ⅱ』で学びたいこと」を、また今回のアンケート調査でも「『乳児保育Ⅱ』の授業で学びたいと思っていたこと」について、自由記述の回答を得た。

自由記述の回答の中から示されたものは次のようなものである。

表1　『乳児保育Ⅱ』で学びたいと思っていたこと
※（　）内の数字は人数

1．乳児との接し方・関わり方（90）
2．乳児の心身の発達（61）
3．衣服の着脱の援助（46）
4．食事（離乳食から普通食への移行も含む）の援助（42）
5．オムツ換えの仕方・排泄時の援助（41）
6．乳児の遊び（40）
7．乳児の児童文化財（21）
8．粉ミルクの作り方・授乳（17）
9．沐浴の方法について（10）
10．乳児の一日の過ごし方・デイリープログラム（9）
11．家庭や地域とのつながり・保護者との関わり方（7）
12．乳児の安全と健康（5）
13．乳児のこころの理解（4）
14．乳児の抱き方（3）
15．乳児保育の保育内容・計画（2）
16．乳児を取り巻く生活環境・市販品
16．乳児の観察のポイント
16．乳児の保育室環境
16．乳児保育の必要性
16．乳児に関わる保育者として求められる役割
16．保育者同士のかかわり
16．睡眠時の援助

最も多くの学生が『乳児保育Ⅱ』の授業で学びたいと挙げたのは「1．乳児との関わり方・接し方について」で、90名の学生がこの項目に含まれる記述を行っていた。その理由のほとんどは「保育所実習Ⅰに行ったとき、3，4，5歳児とは関われるが0，1，2歳児とはどのように接していいか分からなかった」や「保育所実習Ⅰで乳児クラスに入ったが、コミュニケーションが取れなかった」など、保育所実習が契機となったことを表している。0，1，2歳児の姿がイメージできずに、どのように関わっていいか考えることさえ困難な様子が伺えた。また、「1．乳児との関わり方・接し方」の中でも、「言葉をかける」「言葉でのコミュニケーションをとる」ことが特に困難だったことが多く記述回答されている。「反応がないので話しかけること（内容）が分からない」や「伝えたことがあっても伝わっているかどうか確認できない」など、乳児の言葉の発達の特徴と援助に関して、多くの学生が戸惑いや疑問を持ったことは否めない。

次点の「2．乳児の心身の発達について」であるが、61名の学生が学びたいと記述している。この項目は「1．乳児との関わり方・接し方について」と密接に関わっていると思われる。また、同様に「13．乳児のこころの理解（4名）について」もかかわってくるだろう。乳児との様々なかかわりや援助を行う場合、うまくイメージできないものは理論的に習得したいと思うことは必然と思われ、乳児の心身の発達を学んだ上で初めて関わることが出来ると考えていたようである。

「3．衣服の着脱の援助（46名）」、「4．食事（離乳食から普通食への移行も含む）の援助（42名）」、「5．オムツ換えの仕方・排泄時の援助（41名）」の多くの学生が学びたいと挙げている。保育所実習Ⅰの中で乳児クラスに入ったときに、多くの学生が経験し、戸惑ったことであろう。「上着の着衣時に腕が取れてしまうのではないかと思い、うまく援助できなかった」、「実習生だから何でもやってくれるだろうと思って『して、して（洋服を着せてほしいなど）』と乳児が要求するが、どこまで乳児自身で出来るかわからないので何も援助出来なかった」などや、「手づかみで食べさせていいのか、スプーンを使用するか迷った」、「オムツの仕方がわからない」、「排泄はいつくらいからオマルや便器を使うのか分からない」など、技術として多くの戸惑いがあったようである。「9．沐浴の方法について（10名）」や「14．乳児の抱き方（3名）」も技術を学びたいと思ったものとして、これらと同様の疑問であるといえる。もちろん、これらの疑問は「2．乳児の心身の発達について」と合わせて学ぶものであり、また、実際に乳児と接して初めて理解できることも多くあると思われる。「6．乳児の遊び（40名）」や「7．乳児の児童文化財（21名）」なども、根本には「1．乳児との関わり方・接し方について」で戸惑ったからこそ、乳児がどんな遊びをし、どんな遊びを提供したらいいか、あるいはどのような児童文化財（絵本、エプロンシアター、手作りおもちゃなど）を介在させて乳児とかかわったらよいのかを考えたものと思われる。

「8．粉ミルクの作り方・授乳について（17名）」についても複数の学生が学びたいこととして挙げているが、すでに『乳児保育Ⅰ』で行なっていることであるようだが、「再度やってみたい」ことだったようである。また、他教科目で行なわれることとしても考えられる。しかしながら授乳のときの乳児の接し方については戸惑いを感じた記述が見られ、「1．乳児との接し方・関わり方について」とのつながりが見られる。

その他のものに関しても、やはり、保育所実習を経験したからこそ『乳児保育Ⅱ』で学びたいという気持ちが生まれたものと思われる。つまり、学生は保育所実習Ⅰを経験して『乳児保育』の内容の学習課題を見つけたということではないだろうか。

2．『乳児保育Ⅱ』の授業で、「特に役に立った」あるいは「特に学んだことを実感できた」内容、「役に立った」あるいは「学んだことを実感できた」内容について

『乳児保育Ⅱ』のシラバス内容と併せた10項目と自由記述により、「特に役に立った」あるいは「特に学んだことを実感できた」授業内容について3つ選択、「役に立った」あるいは「学んだと実感できた」は上限を設定せず、当てはまるものすべてを選択したものである。

項目は次のものである。

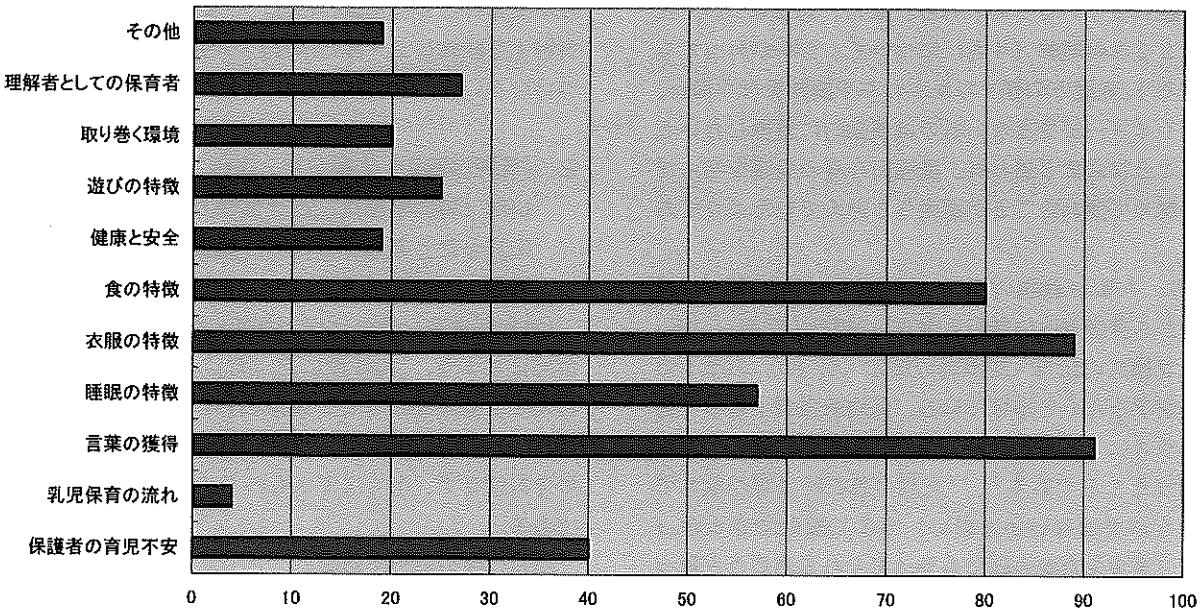
表2　『乳児保育Ⅱ』の授業で、「特に役に立った」あるいは「特に学んだことを実感できた」内容、「役に立った」あるいは「学んだことを実感できた」内容

1．保護者の育児不安とニーズ
2．乳児保育の現在までの流れ
3．0・1・2歳児の言葉の獲得と保育者の援助について
4．0・1・2歳児の睡眠の特徴と保育者の援助について
5．0・1・2歳児の衣服（オムツを含む）の特徴と保育者の援助について
6．0・1・2歳児の食（離乳食・間食）の特徴と保育者の援助について
7．0・1・2歳児の健康と安全（環境構成を含む）と保育者の援助について
8．0・1・2歳児の遊びの特徴と保育者の援助について
9．0・1・2歳児を取り巻く環境と保育者の援助について
10．0・1・2歳児を理解するための保育者のあり方について
11．その他（自由記述）

アンケート調査より次のような結果が示された。（図1および図2）

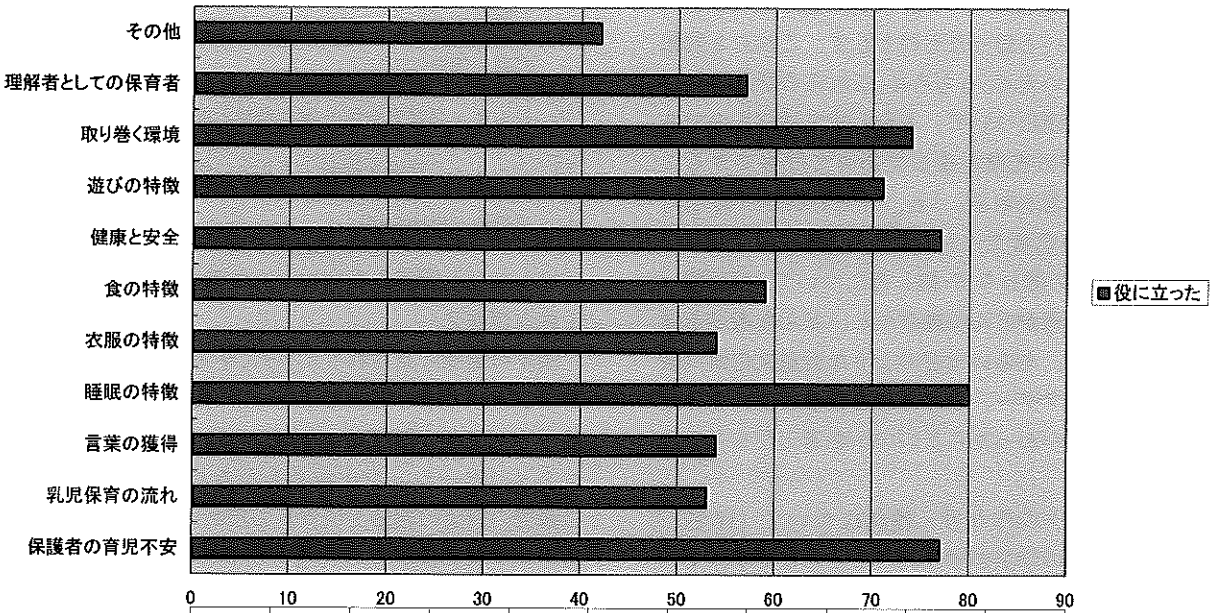
図1の結果に見られるように、学生が『乳児保育Ⅱ』で学びたいと思っていたことに、「乳児との関わり方・接し方」を多く挙げていたが、やはり言葉を用いてのコミュニケーションが中心となるためか、「0・1・2歳児の言葉の獲得と保育者の援助について」に満足感を示す答えが目立ったように思われる。「実習の時にどのように対応したらよいかと悩み、ずっと疑問に感じていたことが、言葉の獲得と保育者の援助を学ぶことで、次の実習ではやってみようと思うことが出来た」や「言葉の獲得の特徴を知ることで、保育者として話しかけることに意味や役割を見出せた」、「実習中

図1　『乳児保育Ⅱ』の授業で「特に役に立った」「特に学んだことを実感できた」内容



	保護者の育児不安	乳児保育の流れ	言葉の獲得	睡眠の特徴	衣服の特徴	食の特徴	健康と安全	遊びの特徴	取り巻く環境	理解者としての保育者	その他
■特に役に立った	40	4	91	57	89	80	19	25	20	27	19

図2　『乳児保育Ⅱ』の授業で「役に立った」「学んだと実感できた」内容



	保護者の育児不安	乳児保育の流れ	言葉の獲得	睡眠の特徴	衣服の特徴	食の特徴	健康と安全	遊びの特徴	取り巻く環境	理解者としての保育者	その他
■役に立った	77	53	54	80	54	59	77	71	74	57	42

は実習生の顔を見るたびに『いや』と言っていたのにも意味があることを知り、『嫌われていたのだろうか』『保育者に向いているのだろうか』と悩まなくていいとわかった」などの回答があり、学生自身が言葉を使ってのコミュニケーションに多くの意味を見出せたのではないだろうか。また、筆者が保育士(0歳児担任)だったこともあって具体的事例を挙げることで、授業と保育所実習経験とを結び付けて考えイメージすることが可能となり、「乳児との関わり方・接し方」の学びを深めたようである。また、乳児との関わり方を学ぶ場合に欠かせない「乳児の心身の発達」は全ての開講授業時に取り入れるようにし、学生の学びにつなげられるようにした。

技術面で学びたいとの意見が多かった「衣服の着脱の援助」、「食（離乳食・間食を含む）の特徴と援助」なども、出来るだけ保育所実習Ⅰで経験したことを再現できるように、具体的事例を多く取り入れることと教材を多く使用することとした。

衣服の着脱の援助では、月齢および年齢ごとの肌着・衣服などを取り揃えること、あるいは学外学習課題としてそれらに触れる機会を持つようにすることなどを指導した。学生は、沐浴人形を使用し実際に少人数でのグループで衣服の着脱を実践したが、その場合、言葉での援助も出来るように少人数のグループごとに衣服の着脱を実践しているときに筆者が具体的な言葉かけの方法や例を実際にアドヴァイスした。食の援助に関しても、乳児の食の特徴（離乳食から普通食への移行も服務）に関して具体的事例を挙げながら講義し、間食に関しては、実際の市販品等も用いて具体的に学ぶことが出来るように工夫をした。衣服と同様、学生には学外学習課題を提示し、乳児の食について好奇心を持てるようにした。これらの技術面は、学生の保育所実習Ⅰでの経験があったからこそ乳児保育に関する実習内容を振り返ることが出来、疑問や悩みを持ったことに対して真摯に取り組む姿が見られたように思われ、また、学びを深めることが出来たのではないかと思われる。

図2は当てはまるものを上限なく選択しているが、結果を見てみると、学んだという実感を全体を通して持てるようなものになったようである。「その他」の項目で挙げられたものには、その回の講義内容に関する余談や乳児の遊びのヒントといった乳児保育の情報が多く見られた。中でも乳児が好むと思われる手遊び・絵本の紹介や具体的な保育の活動の紹介には興味を持って学ぶことが出来、学生自ら取り組もうとする姿が垣間見られた。

全体を通して、学生が乳児の姿をイメージできるように保育所実習Ⅰで起こるような具体的事例を取り入れたこと、体験や経験などのホームワークを取り入れたこと、保育の場で使用する教材を多く取り入れたことなどが、学生の保育所実習Ⅰを通して持った学習課題に働きかけるものとなり、「役に立った」、「学んだと実感できた」内容となったと思われる。

3.『乳児保育Ⅱ』の授業で、「特にもっと学びたかった」あるいは「もっと学びたかった」内容について

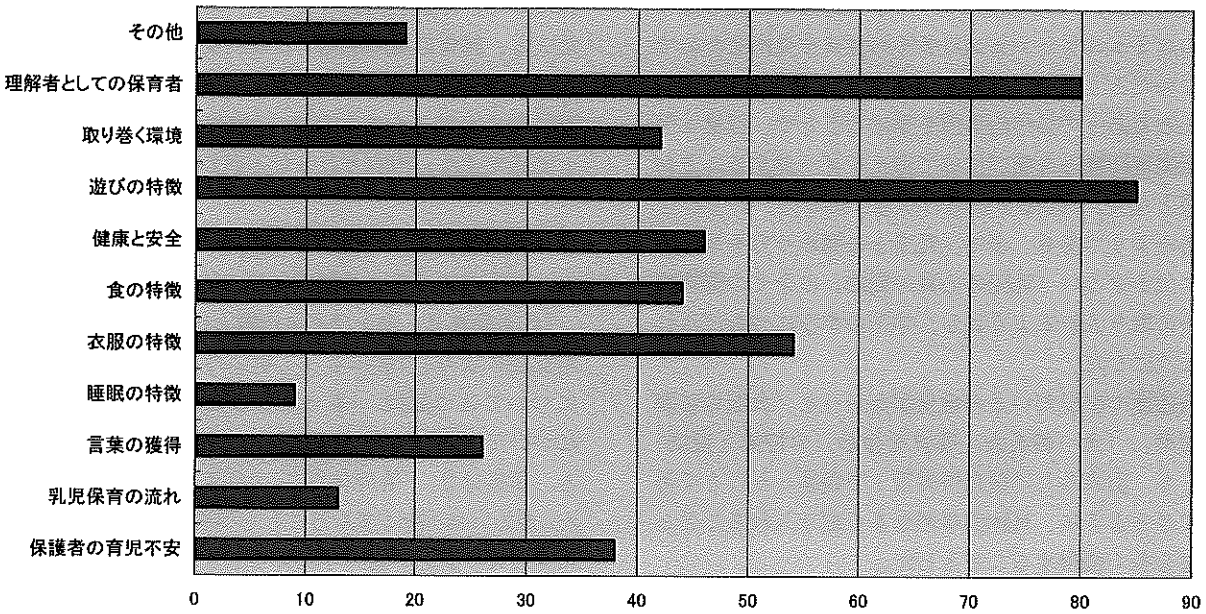
『乳児保育Ⅱ』のシラバス内容と併せた10項目と自由記述により、「特にもっと学びたかった」授業内容について3つ選択、「もっと学びたかった」授業内容について上限なく当てはまるものを選択したものである。項目は2.『乳児保育Ⅱ』の授業で、「特に役に立った」あるいは「特に学んだことを実感できた」内容、「役に立った」あるいは「学んだことを実感できた」内容について、と同様である。

アンケート調査より次のような結果が示された。(図3および図4)

図3で示されるように、最も多くの学生が挙げた項目は「8.0・1・2歳児の遊びの特徴と保育者の援助について」だった。その理由について、「乳児の遊びを実践したかった」や「乳児と一緒に遊ぶ方法や留意点を知りたかった」、「手遊びや絵本の読み聞かせなど具体的に知りたかった」などが挙げられていた。月齢・年齢による遊びの特徴や留意点など授業を通じて行なえることもあるが、「具体的な遊び（手遊び・絵本の読み聞かせ・エプロンシアター・手作りおもちゃなど）をもっと知りたいが、授業で学ぶきっかけを得たので、あとは自分自身で調べたり学んで身につけるべきかなとも思う」との学生の意見にあるように、実際にはホームワーク等で、学生自らが気づいた学習課題に取り組むことが必要となる。これは、限られた授業時間を有効に活用するためにも欠かせないと思われる。また、衣服やオムツ着脱時の援助も「もっと学びたかった」ものとして挙げているが、授業時間だけでは物足りないということであろう。授業外の時間でも学生が取り組めるような備品の使用と管理についても取り組むべきだと思われる。

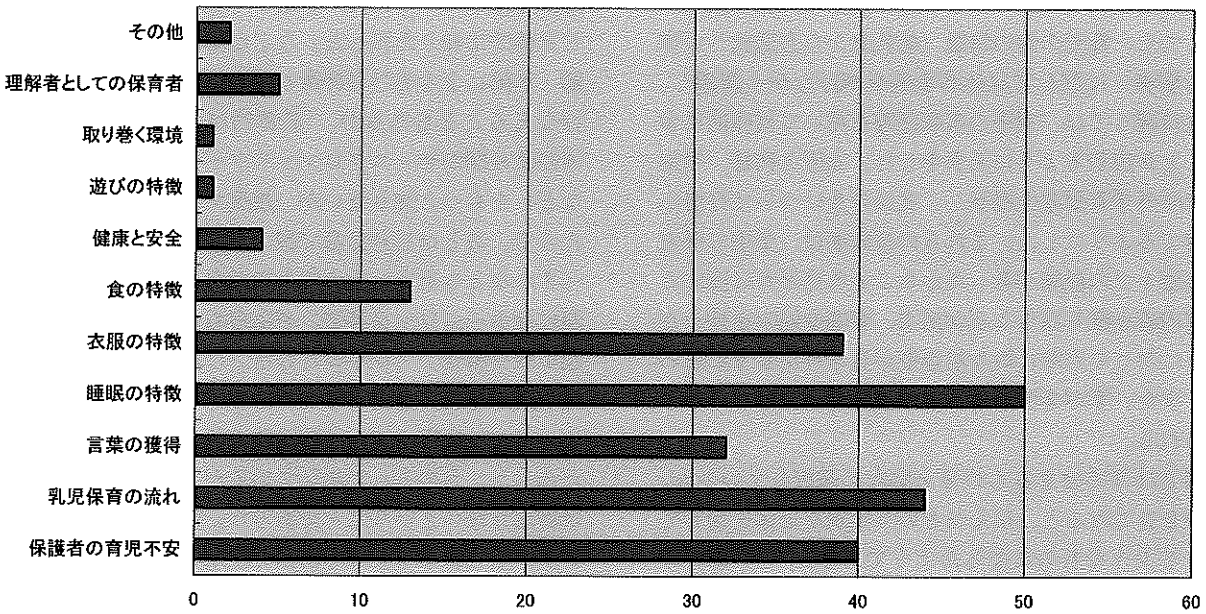
また、2番目に多く挙げられた「10. 0・1・2歳児を理解するための保育者について」の選択理由だが、「乳児保育に関わる保育者となるにはどのような心構えがいるのか」などが挙げられていた。乳児保育を担

図３　『乳児保育Ⅱ』の授業で「特にもっと学びたかった」内容



	保護者の育児不安	乳児保育の流れ	言葉の獲得	睡眠の特徴	衣服の特徴	食の特徴	健康と安全	遊びの特徴	取り巻く環境	理解者としての保育者	その他
■もっと学びたかった	38	13	26	9	54	44	46	85	42	80	19

図４　『乳児保育Ⅱ』の授業で「もっと学びたかった」内容



	保護者の育児不安	乳児保育の流れ	言葉の獲得	睡眠の特徴	衣服の特徴	食の特徴	健康と安全	遊びの特徴	取り巻く環境	理解者としての保育者	その他
■学びたかった	40	44	32	50	39	13	4	1	1	5	2

当する保育者には、命を保護しているというような高い意識が求められ特に養護においての知識や気づきが必要になる。毎回の授業の中で多くの具体的事例を取り入れたが伝わりにくかったのではと反省することである。

図３の選択理由および図４の選択理由からは、全体的にマニュアル的なものを求めている記述が多く見られたが、マニュアルとして示されるもの、マニュアルとしては示されないものがあることを学生自身が気づくような授業展開が望まれる。

また、回答の多くの選択理由として、学生自身が学習課題を持って授業に臨み、満足感を持ち「学ぶことの楽しさ」を知ったことが挙げられている。

厚生労働省から示されている教科目の教授内容[3)]の「乳児保育」では次のようになっている。(表３)

保育所実習を通して学生自ら見出した学習課題に応じた授業展開や教授内容を考慮して授業の組み立てをすることは必要であるが、保育士資格取得に定められた教科目の教授内容に沿って授業展開をすることも必要なことである。学生の学習課題を重視するがあまりに学生に迎合し定められた教科目の教授内容を軽視することがあってはならない。

また、学生の学習課題は、他の教科目との連携で解決されるものも多い。例えば、粉ミルクや離乳食の作り方と特徴などは主として小児栄養や小児栄養実習で行なわれる内容であると思われ、また、アレルギーやアトピー、病児病後児への対応など主として小児保健や小児保健実習で扱われる内容であろう。

表３【保育の内容・方法の理解に関する科目】

<科目名> 乳児保育（演習・２単位）
<目　標> １．わが国における乳児保育の変遷と保育所・乳児院・家庭の現状を確認しながら、保育所や乳児院の果たす役割、乳児保育を担当する保育者としての役割を自覚させる。 ２．保育所や乳児院で乳児保育を担当する保育士として必要な乳児保育の理論や知識・技術の基本を具体的な事例を通して理解させる。 ３．広く乳児期（３歳未満児）の発達と保育について学びながら、そこにおける大人の役割について、事例をもとに具体的に理解させる。 ４．乳児を集団で保育することについて、保育現場での具体的な課題を、討議しながら考え問題解決の方法を理解させる。
<内　容> １．乳児保育の意義 （１）乳児・乳児保育の概念 （２）保育ニーズと乳児保育の考え方の基本 ２．乳児保育の発展の経緯と現状 （１）乳児に対する保育観の変遷 （２）乳児保育の一般化への過程 （３）保育所・乳児院の役割と乳児保育の位置づけ ３．乳児の発達と保育 （１）０歳児の発達と保育（新生児期、０歳児前期、０歳児後期） （２）１歳児の発達と保育 （３）２歳児の発達と保育 （４）乳児の発達と保育（援助の基本的視点の獲得） ４．乳児の発達と保育 （１）乳児保育の計画（保育計画、指導計画） （２）保育形態と保育の環境構成 （３）職員の協力体制 （４）家庭・他機関・地域との連携 ５．保育の計画と記録・評価 （１）記録・評価 （２）保育者の専門性 ６．今後の課題

Ⅳ．今後の課題とまとめ

やはり、保育所実習を経験した学生の成長は目を見張るものがある。「保育所実習Ⅰでは『乳児クラス＝不安』だった気持ちが『乳児クラス＝楽しみ』に変わった」、「保育所実習Ⅰで乳児は何も言えないので自分がすることばかり考えていたが、まずは乳児の気持ちはどうなんだろうと考えるようになった。次の実習では保育所実習Ⅰよりも温かい気持ちで乳児と関われると思う。楽しみだ。」との学生の意見があるように、保育所実習以前に『乳児保育Ⅰ』で乳児保育に関する基礎理論を学んで、乳児の姿をイメージすることが出来ないながらも保育所実習に臨み、保育士から指導を受けながら、毎日の実習を反省しながら、学生なりの学習課題を見つけることが出来たからこそ、『乳児保育Ⅱ』の授業に目標を持って臨めたことと思われる。保育所実習あるいは施設実習（乳児院）とのつながりを考慮しながら、今後も学生が学習課題を自ら見つけることができ、乳児保育にリアリティを持って取り組めるような教授法について探りたい。

〈参考文献・引用文献〉

１）汐見稔幸、松永静子、他「自主シンポジウム30　乳児集団保育における環境条件の及ぼす発達的影響について－乳児保育の基礎理論を求めて（１）－」『日本保育学会第57回大会発表論文集』ｐＳ60　2004

２）汐見稔幸、松永静子、他「自主シンポジウム１　乳児集団保育における環境条件の及ぼす発達的影響について－乳児保育の基礎理論を求めて（２）－」『日本保育

学会第５８回大会発表論文集』ｐｐＳ２－３　2005
3）厚生労働省雇用均等・児童家庭局長通知「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」平成15年12月9日

Study of the Content of Lessons in "Infant Day Care II"
- On the Basis of a Student Questionnaire -

Chizu Nonaka

<Abstract>

Students who went through "Nursery School Practical Training I" in the first year learnt much as a consequence of actually engaging with infants, and it seems likely that individual students possess study topics that lead towards "Nursery School Practical Training II," which constitutes the next stage in the practical training programme. The second semester of the first year includes "Infant Day Care I." This is followed by "Nursery School Practical Training I," which takes place in February and March of the first year, which is then followed by "Infant Day Care II" in the first semester of the second year. What sort of content is sought by students who have learnt the basics of infant day care in "Infant Day Care I"? The questionnaire carried out on second-year students that looked into study topics in connection with areas of infant day care of which the students were themselves aware. I examined how the study topics that emerged from the questionnaire are linked to the original content of teaching in the field of "infant day care."

Key words: infant day care, content of teaching, practical training in day care, students, study topics